

入選

大切な思い出

北海道 亀田中学校

1年 谷山亜依瑠

2023年8月、その日は港祭りが開催されていました。屋台がたくさんならんでいて、人が多く、歩くのにもせいいっぱいでした。屋台がならんでいるところから出て、少し歩くと人の量は減り、私たちは車にのり家へ帰ろうとしていました。

目の前の信号が赤にかわり、青になるのを待っているとき、歩行者用の横断歩道を1人のおじいさんが渡っていました。おじいさんはもう少しで赤になりそうだというのに、まだ横断歩道の真ん中にいました。

このままだと、赤になってしまいます。そのとき、近くにいたトラックの運転手さんが車をおりて、おじいさんのところまで走ってとなりまで行きました。運転手さんはおじいさんの手を取り、おじいさんのペースにあわせながら少し早歩きをして、歩道の方まで行きました。

信号はすでに赤になっていたけれど、信号を待っていた車はすべて、おじいさんが渡るのを待っていました。車にのっている人たちのまなざしはとても温かく、その人たちの思いが1つになっている気がしました。おじいさんを助けた運転手さん、温かいまなざしを向けていた車の中の方々のような人がいるから、日本は温かいのだなと改めて思いました。

私は、おじいさんを待つことしかできなかつたけれど、これからはこのようなできごとに関係なく、困っている人がいたら自ら動き、助けたいと思いました。約1年経った今でも、その信号を見るとこのできごとを思い出してしまうくらいなので、自分の心が動かされたのだなと思います。

それからもう1つ、私のお母さんについてです。4月の春休みのこと、札幌に行ったとき、歩道に車いすの女の人がありました。私がかつひもを結んでいると、女の人が物を落とし拾えないでいたので、お母さんが走って女の人のところへ行き、物を拾ってあげたのです。

その女の方は温かい笑顔で、「ありがとうございます。」と言いました。私はその人が物を落としたことにさえ、気づけていませんでした。周りを見て、すぐに助けに行けるお母さんは本当にすごい、と思いました。ほかにも、お母さんが困っている人を助けているシーンをたくさん見て、本当にすごいし、カッコいいなと思いました。

私もお母さん、運転手さんを見習い、周りを見て行動していきたいです。そして、女の方の温かい笑顔を見て、自分も困っている人を助け、助けた人の笑顔を見たいと思いました。助けるということは人のためになるだけでなく、自分を成長させる大きな一歩だと思っています。自分自身を成長させるためにも、周りの人のため自分から行動できるようになりたいと思いました。

今まで、私もいろいろなことでたくさんの人に助けられ、支えられてきて、人間というのは、支え合い、協力して生きていくすてきな生き物だと思います。これからは私が助けられ、支えられてきたことを生かし、今度は私が助けて、支えてあげられる、そんなすてきな人になりたいと思いました。